

美濃加茂市未来のまちづくり委員会（第1回）議事録

1. 日時：平成 30 年 8 月 2 日（木） 午後 3 時 00 分～5 時 15 分
2. 場所：美濃加茂市生涯学習センター 202 号室
3. 出席者（順不同）：
 - （1）委員：
海道会長、須藤委員、原田委員、高井委員、鈴木委員、宮口委員、渡邊副会長、長谷川委員（9 名中 8 名出席）
 - （2）業務委託先：
株式会社地域計画建築研究所 3 名（立地適正化計画）
玉野総合コンサルタント株式会社 1 名（新庁舎整備基本計画）
 - （3）市：
市長、経営企画部長、経営企画部対策監、施設経営課長、その他施設経営課 2 名
建設水道部長、建設水道部対策監、都市計画課長、その他都市計画課 2 名
4. 概要：
 - （1）市長あいさつ 会議開始にあたり市長からあいさつがあった。
 - （2）委員紹介 事務局から、各委員の紹介がされ、続いて各委員から自己紹介がされた。
 - （3）会長の選出 委員の互選により、海道氏が委員会会長に選出された。
 - （4）会長あいさつ 海道会長から、委員会会長就任にあたりあいさつがあった。
 - （5）副会長の選出 委員の互選により、渡邊氏が委員会副会長に選出された。
 - （6）市長から会長へ諮問書の手交 市長から会長へ諮問書が手交された。
 - （7）本委員会の設置経緯等
事務局から、資料に基づき、本委員会の設置経緯等について報告があった。報告された内容は、美濃加茂市附属機関の設置に関する条例、今後の委員会スケジュール、審議内容等である。
 - （8）立地適正化計画について
事務局から、資料に基づき、立地適正化計画の概要、課題、留意すべき事項について説明があった。委員から出された主な意見は以下のとおり。
・本委員会と都市計画審議会の役割や位置付けは何か。
（事務局回答）本委員会は、立地適正化計画策定を協議する地方自治法の附属機関として

設置。都市計画審議会は、都市計画マスタープランを審議する都市計画法で定められた審議会。どちらが上位・下位ではなく相互に連携を取りつつ協議をお願いする。

- ・資料中の都市の骨格を検討するとは、どういうことか。

(事務局回答) 都市の骨格の検討とは、国土交通省が発行している立地適正化計画作成の手引きに記載がある。この資料は手引きからの抜粋であるが、コンパクトシティという用語は、根拠法である都市再生特別措置法では「集約型都市構造」とされている。市どのエリアを中心拠点に設定し、その中心拠点を含むコンパクトエリアとそれを公共交通や道路網で繋ぐサテライトエリアをどう設定するかといった、都市構造を都市の骨格とっており、将来都市構造の設定手法などが手引きで解説されている。

(9) 新庁舎整備基本計画について

事務局から、資料に基づき、新庁舎整備基本構想の概要、今後基本計画で審議していく内容等について説明があった。委員から出された主な意見は以下のとおり。

- ・本委員会の新庁舎議論の順番として、最初に規模や機能ではなく候補地をしぼるという順番にしたのは、まちづくりを考えた場合に最も望ましい新庁舎の場所を決めたいから、という理解でよいか。

(事務局回答) そのとおり。

- ・庁舎に関するアンケート結果を見ると、若い世代において新庁舎に関する議論が行われていることを知らない割合が高い。市民ワークショップにおいて若者の意見を聞いたとは思いますが、そういった未来を担う若者の新庁舎整備に対する認知度を上げ、彼ら彼女らの意見をくみ取ることは大事。

(10) 美濃加茂市の未来のまちづくりについて意見交換

美濃加茂市の未来のまちづくりについて、委員による意見交換を行った。委員から出された主な意見は以下のとおり。

- ・市役所の事務的な機能を利用するというだけではなくて、みんなが利用できるような、人が集まるような、若者が集まってくる、そういった市役所を目指すということも重要。
- ・新庁舎の場所を決める際に、民間事業者に意見を聞く機会があってもよいのではないかと。また、立地適正化計画では公共交通が重要だが、交通を活用して前向きに、みんなが幸せに暮らせるためにはどうすべきかについて議論していきたい。
- ・コンパクトシティ+ネットワークについて、これはあくまで強制力のあるものではなく誘導するものである。あい愛バスについては、本数は増えたが、利用者を増やすための検討の余地はまだある。誰もがどこに住んでいても容易に移動できるような公共交通を整備することがポイントである。
- ・駐車場を広くするとか立地のよいところとか、そういうことを言えば財源がいくらあっても足りない。また市役所は、一般的には一年に何回も来る場所ではないので、開かれた市役所という概念はどうかと思う。バスターミナルについては、必ずしも駅前である必要はなく、駅から離れていても新市役所を中心としてそこがターミナルになってもよいのではないかと。一般的に行政は、駅を中心としたまちづくりを考えているが、春日井市などは駅前ではなく駅から離れたところが発展している。発想を変えて市役所を駅か

ら離れた全く違うところに持っていくのも選択肢のひとつ。

- ・人口減少、生産年齢人口減少、高齢化率増加、税収は増えない、こういった現実を踏まえてまちづくりを考えないと、その計画は夢物語に終わってしまう。庁舎については「この市役所はすごく立派ではないけれど使いやすいね」「みんなが集まれるね」と言われるようなものにしていきたい。
- ・市内の子ども達は、まちの変化に多大な影響を受けて学校に通っている。まちづくりは中長期的な視野のもと計画的に行うべきだということを再認識した。たまたま子どもの例を挙げたが、まちの主演は人であるので、まちづくりが人にとってどうであるかという検証等は常に必要である。人・地域文化の交流や連携という意味でのネットワークというのが1つの課題。その解決につながる新庁舎という発想もできたらよい。
- ・クリニックをハシゴする高齢者は、バスを使う方もいらっしゃるが多くはタクシーを利用する。その市民が何を求めているかによって、あるべき交通網のあり方は変わってくる。また、まちづくりについては、私を含めて受け身である市民が多い。将来的なまちづくりを自分ごとにする人が増えるとよい。

(以下、会長から)

- ・立地適正化計画は、国土交通省のお手本をもとに全国の一部自治体が計画策定を始めている。当市には当市の特徴があるのでそれを取り入れながら議論を進めたい。
- ・新庁舎整備基本構想では西暦 2050 年を見据えた議論もした。それぐらい先を見据えたまちのあり方を考えることも必要。また、車を利用できる市民とそうでない市民がいらっしゃるということについても考慮する必要がある。
- ・市役所は、たしかに、若い人はあまり行かないし、一般的にもあまり行かない場所である。ただ、美濃加茂のまちは郊外が発展して、工場もあるし、スーパーもあって賑やかだが、まちの中が空洞化していて人通りも少ない。お店も商売があまり活発ではないという状況であるが、まちの中がドーナツみたいな形で空洞化していくのはどう考えても色々な面で好ましくない。今回の考え方というのはまちづくりと絡めて市庁舎を整備することによってまちの人の流れやまちのイメージも変えていく、そういったことが大きいテーマではないか。単に庁舎をどこに置くということであれば、波及効果は大きくない。庁舎をまちづくりと絡めて考えることによって大きなインパクトをまちに与える可能性がある。そういうことを期待している。

(11) 会長によるまとめ

会長から本日のまとめ及び感想が述べられた。

5. 今後の予定

次回開催日時は、平成 30 年 9 月 7 日 午後 7 時 00 分～9 時 00 分とした。

以上